



平成25年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年2月6日

上場会社名 株式会社 J-オイルミルズ
 コード番号 2613 URL <http://www.j-oil.com>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 榎田 純和
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員経理部長 (氏名) 立見 健一
 四半期報告書提出予定日 平成25年2月14日
 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東大

TEL 03-5148-7100

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年3月期第3四半期の連結業績(平成24年4月1日～平成24年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年3月期第3四半期	141,265	1.0	5,423	31.8	5,585	36.1	3,302	38.4
24年3月期第3四半期	139,852	7.9	4,114	20.9	4,104	19.2	2,385	40.4

(注) 包括利益 25年3月期第3四半期 3,818百万円 (70.2%) 24年3月期第3四半期 2,243百万円 (201.2%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年3月期第3四半期	19.79	—
24年3月期第3四半期	14.29	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年3月期第3四半期	147,534	70,560	47.8
24年3月期	142,436	68,104	47.8

(参考) 自己資本 25年3月期第3四半期 70,560百万円 24年3月期 68,104百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年3月期	—	4.00	—	4.00	8.00
25年3月期	—	4.00	—	—	—
25年3月期(予想)	—	—	—	4.00	8.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年3月期の連結業績予想(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	191,000	5.5	6,000	27.7	6,000	28.4	3,300	25.5	19.78

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 有

④ 修正再表示 : 無

(注)「四半期連結財務諸表の用語、株式及び作成方法に関する規則」第10条の5に該当するものであります。詳細は添付資料4ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)

25年3月期3Q	167,542,239 株	24年3月期	167,542,239 株
----------	---------------	--------	---------------

② 期末自己株式数

25年3月期3Q	736,476 株	24年3月期	618,842 株
----------	-----------	--------	-----------

③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年3月期3Q	166,833,183 株	24年3月期3Q	166,924,321 株
----------	---------------	----------	---------------

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、【添付資料】3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報（注記事項）に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
第3四半期連結累計期間	
四半期連結包括利益計算書	8
第3四半期連結累計期間	
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

平成25年3月期第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日～平成24年12月31日）に係る経営成績は、次のとおりであります。

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、震災の復興需要等を背景に回復傾向にはあるものの、欧州債務危機や国内のデフレの影響等により、依然として厳しい状況にありました。

製油産業におきましては、主原料である大豆及び菜種の相場は、世界的な異常気象による生産量減少や欧州債務危機等の経済・金融問題等も影響し、乱高下しながらも高値で推移する展開となりました。

大豆のシカゴ相場は、4～6月にかけて1ブッシェル当たり14～15米ドル付近の高値で推移した後、7～9月にかけては、米国産地における1950年以来となる広範囲に及ぶ干ばつ等の影響により、1ブッシェル当たり18米ドル目前まで上昇し、史上最高値を更新しました。10～12月には、南米産地における生産量予想の増加により、一転して、1ブッシェル当たり14米ドル付近まで下落しました。

菜種のウィネペグ相場も、1トン当たり600～650加ドル付近の高値で推移し、7月には1トン当たり700加ドル目前まで上昇し、史上最高値に迫った後、10月には一転して、1トン当たり600加ドル付近まで下落しました。

以上のように原料相場が記録的な高値で推移する中、当社は、安定した原料調達を可能とし供給責任を果たすためにも、コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格を実現すべく、4月、7月及び10月に油脂製品の価格改定を打ち出す等、得意先に対し粘り強く理解を求めてまいりました。しかしながら、原料相場の高騰に対する一定の理解は得られたものの、長引くデフレの影響等もあり、価格改定については十分な成果をあげるまでには至りませんでした。他方、家庭用油脂のプレミアムオイルや業務用油脂の高機能性油、付加価値型のミール製品等の拡販に努めるとともに、徹底したコスト削減を図るべく、経費予算のゼロベースでの組み直しや生産の効率化等に取り組みました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高1,412億65百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益54億23百万円（前年同期比31.8%増）、経常利益55億85百万円（前年同期比36.1%増）、四半期純利益33億2百万円（前年同期比38.4%増）となりました。

当第3四半期におけるセグメントの営業概況は、次のとおりであります。

（製油事業）

油脂部門においては、原料コスト増加を含む製品価値に見合った販売価格の実現に取り組みました。

家庭用油脂は、“ちょっとdeちょうどいい！”をキャッチコピーとした小容量サイズの販売が伸長した他、オリーブオイル・ごま油等のプレミアムオイルを中心にメニュー提案等の積極的な販売活動を展開し、販売数量は堅調に推移しました。

業務用油脂は、“長く使える”をコンセプトとした「長調得徳®」シリーズや、バターの代替として使える風味油「SavorUpバターフレーバーオイル」等の高機能性油の拡販に注力し、販売数量は堅調に推移しました。

マーガリン部門においては、家庭用マーガリンは、夏場の猛暑等が影響したものの、“減塩でもおいしい”をコンセプトにした「ラーマ®ソフト減塩」のパッケージデザインをリニューアルする等の拡販に努め、販売数量は前年実績を確保しました。業務用マーガリンは、“自然な乳の風味”が特長の新製品「マイスター®デリシア」等を6月に発売しましたが、被災地向け需要の減少もあり、販売数量は前年同期を下回りました。

油糧部門においては、安価な輸入大豆ミールの影響等があったものの、穀物相場の上昇に伴う販売価格の上昇により、売上高は前年同期をやや上回りました。

以上の結果、当事業の売上高は1,299億89百万円（前年同期比0.6%増）、営業利益は73億66百万円（前年同期比20.9%増）となりました。

(その他)

飼料部門においては、酪農家戸数や乳牛飼養頭数が減少する依然として厳しい販売環境の中、乳牛用配合飼料を中心に広域での拡販に努め、販売数量・売上高とも堅調に推移しました。

スターチ部門においては、新製品の粒状澱粉「ネオトラスト®」の他、食品用タピオカ澱粉、ビール用Non-GMOコーンスターチの販売が好調に推移し、販売数量は前年同期を上回りました。

健康食品部門においては、「豊年®大豆レシチン(顆粒)」がテレビで紹介されて以降、販売を伸ばしているものの、ドラッグストア向けの競争激化等により、売上高は前年同期を下回りました。ビタミンK2 (MK-7) は、欧州競合メーカーの安値攻勢等が影響し、売上高は前年同期を下回りました。大豆蛋白を原料とするシート食品「まめのりさん®」は、米国向けを中心に販売数量は順調に推移しました。

化成品部門においては、石油化学系原料が高止まりする厳しい環境の中、住宅購入優遇制度等の政策により新設住宅着工戸数は堅調に推移しました。このような状況の下、新たな需要家を開拓する等の拡販に努め、売上高は前年同期を大きく上回りました。

以上の結果、その他の売上高は112億76百万円（前年同期比5.5%増）、営業利益は3億22百万円（前年同期比3.9%増）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

(資産、負債及び純資産の状況)

当第3四半期末の総資産は、前期末と比べ50億97百万円増加し、1,475億34百万円となりました。主な増加は、受取手形及び売掛金が60億47百万円、たな卸資産（合計）が17億76百万円であります。主な減少は、現金及び預金が6億57百万円、有形固定資産が22億65百万円であります。

負債は、前期末と比べ26億41百万円増加し、769億73百万円となりました。主な増加は、社債合計が120億円であります。主な減少は、借入金合計が64億59百万円、未払消費税等が7億32百万円、流動負債その他が19億71百万円であります。

純資産は、前期末と比べ24億55百万円増加し、705億60百万円となり、自己資本比率は47.8%となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

製油産業におきましては、原料相場は依然として高値圏で推移しております。また、為替相場における円安の進行により、原料及びエネルギーコストの上昇が予想されます。このような中、当社は、油脂製品及びミール製品の付加価値化や、生産の効率化等によるコスト削減を推進するとともに、製品価値に見合った販売価格の実現に向け、粘り強く得意先に対し理解を求めてまいります。

以上により、当期の業績予想につきましては、前回発表（平成24年11月5日）から変更はありません。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動
該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用
該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社及び国内連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益は111百万円、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ112百万円増加しております。

3. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,955	5,298
受取手形及び売掛金	37,263	43,311
商品及び製品	12,737	13,478
原材料及び貯蔵品	16,190	17,226
繰延税金資産	1,387	1,074
その他	2,098	2,293
貸倒引当金	△12	△8
流動資産合計	75,620	82,674
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	12,103	12,866
機械装置及び運搬具（純額）	18,089	18,756
土地	19,746	19,746
建設仮勘定	4,138	614
その他（純額）	1,323	1,151
有形固定資産合計	55,401	53,135
無形固定資産		
投資その他の資産	524	508
投資有価証券	9,889	10,243
長期貸付金	325	302
その他	812	752
貸倒引当金	△137	△140
投資その他の資産合計	10,890	11,158
固定資産合計	66,815	64,802
繰延資産	—	57
資産合計	142,436	147,534

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	16,227	16,461
短期借入金	16,890	18,050
1年内返済予定の長期借入金	7,649	2,651
1年内償還予定の社債	—	5,000
未払法人税等	1,615	1,501
未払消費税等	763	30
賞与引当金	754	501
役員賞与引当金	37	22
その他	12,585	10,613
流動負債合計	56,523	54,833
固定負債		
社債	5,000	12,000
長期借入金	2,916	294
繰延税金負債	3,052	3,098
退職給付引当金	3,000	3,002
役員退職慰労引当金	297	292
環境対策引当金	206	208
長期預り敷金保証金	2,175	2,199
その他	1,159	1,045
固定負債合計	17,808	22,140
負債合計	74,332	76,973
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	31,633	31,633
利益剰余金	24,662	26,630
自己株式	△210	△238
株主資本合計	66,085	68,024
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,022	2,206
繰延ヘッジ損益	42	368
為替換算調整勘定	△45	△39
その他の包括利益累計額合計	2,018	2,535
純資産合計	68,104	70,560
負債純資産合計	142,436	147,534

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
四半期連結損益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	139,852	141,265
売上原価	117,723	118,052
売上総利益	22,128	23,212
販売費及び一般管理費	18,013	17,789
営業利益	4,114	5,423
営業外収益		
受取利息	5	4
受取配当金	215	208
持分法による投資利益	—	91
雑収入	83	80
営業外収益合計	304	385
営業外費用		
支払利息	236	173
持分法による投資損失	23	—
雑支出	54	51
営業外費用合計	314	224
経常利益	4,104	5,585
特別利益		
固定資産売却益	3	0
投資有価証券売却益	1	0
関係会社清算益	—	10
受取保険金	55	—
特別利益合計	59	10
特別損失		
固定資産除却損	142	173
固定資産売却損	0	0
減損損失	92	0
投資有価証券評価損	4	11
投資有価証券売却損	0	—
会員権評価損	3	3
リース解約損	20	10
環境対策引当金繰入額	66	4
特別損失合計	329	203
税金等調整前四半期純利益	3,834	5,391
法人税、住民税及び事業税	1,689	2,024
法人税等調整額	△240	65
法人税等合計	1,449	2,089
少数株主損益調整前四半期純利益	2,385	3,302
少数株主利益	—	—
四半期純利益	2,385	3,302

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	2,385	3,302
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△73	183
繰延ヘッジ損益	△37	326
持分法適用会社に対する持分相当額	△30	6
その他の包括利益合計	△141	516
四半期包括利益	2,243	3,818
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,243	3,818
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	129,168	10,683	139,852	—	139,852
セグメント間の内部売上高 又は振替高	223	32	255	△255	—
計	129,391	10,716	140,107	△255	139,852
セグメント利益	6,093	310	6,403	△2,288	4,114

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△2,288百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,288百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント	その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	製油事業				
売上高					
外部顧客への売上高	129,989	11,276	141,265	—	141,265
セグメント間の内部売上高 又は振替高	211	33	244	△244	—
計	130,200	11,309	141,510	△244	141,265
セグメント利益	7,366	322	7,689	△2,265	5,423

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、飼料・スターチ・栄養補助食品・化成品の製造、加工、販売、ならびに不動産賃貸等の各種サービス等が含まれております。
2. セグメント利益の調整額△2,265百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,265百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。